

編集後記：私たちは昔から様々な季節を表す言葉を日常生活の中で使ってきました。二十四節気はその最たる言葉だと思います。二十四節気は、太陽の黄道上の動きを視黄経の位置によって1年を24等分して決められたもので、等分したそれぞれに季節の名称がつけられています。テレビの天気予報で「きょうは二十四節気のひとつ何々です。」と聞いたことがあると思いますが、とあるアンケートにて、半数ぐらいの人が二十四節気を知らない、と聞いた時には驚きました。また、春分や秋分などは知っていても、小満や芒種を知らなかったり、雨水や清明など言葉は知っていても意味を知らない人も多いそうです。実際の日本の季節感と二十四節気が若干ずれていたり、今ではほとんど知られていない行事に関連していたりするため、認知度も低くなったのかもしれない。

二十四節気は知らずとも、季節を感じる言葉は現代社会でもたくさん使われており、この言葉を聞くと

「ああ、もうこんな季節なのか」と感じることもあると思います。ちょうど今から年末にかけては、クリスマス、冬将軍、年末寒波などが季節を感じる言葉として挙げられるでしょうか。もちろんその土地ならではの言葉もあるでしょうし、その人の思い出によっては様々な季節の言葉があることでしょう。ともあれ、新しい言葉が使われ、定着していく一方で、古くから伝えられている日本的な季節感を表す言葉の持つよさは大切にしていきたいですし、新たな言葉とともに活かし続けていきたいものです。「天気」では、新用語解説という気象関係の用語について簡単に説明をするコーナーがあります。また解説では最新の成果や興味深い話題をわかりやすく説明しますし、気象談話室ではもう少し柔らかくした気楽に読める内容の話題を扱っています。「天気」が新しい事を知り、温故知新の機会を得られる場になれば幸いです。

(田口晶彦)